



OBのつぶやき

計画が煮詰まった

鹿児島県PTA連合会 元副会長 海江田 宗順

子供たちには、主体性を持ち、自分たちで何をしたいか、起案・計画して活動をして欲しいが、そのためには何が必要なのか、しっかり練り上げて一つ一つ段取りを実行していつて欲しいです。

実際は活動していくうちに壁にぶつかって、つまずいたり、諦めて中止したりすることもありますが、それを良き反省材料として次に活かされるとよいのです。

途中で計画を修正しながら、変更して何とか事業をなしていくことも醍醐味となるでしょうが、失敗体験こそが次の成功を導くことは、実際に行動しなければ味わうことも出来ないのです。是非とも失敗を恐れず、前進させてあげたいですね。

もちろん成功体験は、自己肯定感や達成感を味わう良いチャンスとなることは言うまでも無いので、支えていつてあげたいです。

さて、つまずきを最小限にする

ためには、初期の計画段階で充分な話し合い活動が必要となりますが、協議の途中において「計画が煮詰まりました」と悲鳴を上げて助け船を求めてくる場合があります。

その時には、「良かったね。計画が練り上がりましたか」と声を掛けて欲しいのです。子どもからキョトンとした顔をされたら、日本語の説明をして欲しいです。「計画が煮詰まった」とは煮詰まった訳なので「出来上がった」ということになります。話し合いが進捗しないのであれば「計画が行き詰まる」なのですよね。

